

エストニア人を 表す特徴



WEL
COME
TO EST
ONIA™

エストニア
無限の驚き

シェルパターン

バイクにもたれかかる女性が履いているスカートの不思議な縞模様をご覧ください。

このスカートは、ちょうどCDやメモリスティックと同じようなデータ記憶媒体。縞の1本1本が、情報を伝えるコードのようなもので



エストニアの伝統的なスカートは、着ている人について多くのことを語る。

す。これらの縞模様を一緒に見ると、スカートを履いている人の情報＜出身がどこで、どこに住んでいて、誰と結婚し、自分の人生にどれほど満足しているか＞などが一目でわかります。この縞模様は、シェルパターン（貝殻模様）と呼ばれる、北国の魔法です。

エストニア沖には1500を超える島があり、そのひとつにはシェル島と言う名前が付いています。すべての島々に、ほとんど手付かずの状態に残された島特有の自然環境と、それぞれの文化が醸し出す独特の雰囲気があります。そして、そこでは必ず感嘆に値する何かが見つかります。「でもどうやって…」

写真のバイクと木製サイドカーについて少し説明しましょう。シェル島の男性は、皆漁師です。しかし、漁はもっとも危険で男らしい職業のひとつとされています。そのため、彼らの妻は皆海岸に集い、愛する人が海から帰ってくるのを待ちます。サイドカーは、男たちが獲ってきた魚を載せるためのものです。

真の漁師も真の男たちと同じく、酒を飲むのが大好きです。夫が酒を飲んだとき、妻たちは魚と一緒に夫をサイドカーに乗せて帰ります。これなら簡単に、家路に向かうことができます。ノルマルネ!



「ノルマルネ!」

Normaalne!

「ノルマルネ!」これは、エストニア人が特に幸運に恵まれたときに使う言葉です。たとえば、エストニアの友人が金曜の夜にカジノで百万ユーロを獲得したとき、その友人に「週末はどうだった?」と尋ねてみてください。彼は「ノルマルネ!」と答えることでしょう。

北京オリンピックで、エストニアのゲルド・カンテル選手が円盤投げで金メダルを獲得したとき、テレビで観戦していた何千人ものエストニア人が「ノルマルネ!」と叫びました。

「ノルマルネ!」この言葉が意味するのは、「こんな幸運が訪れるなんて、信じられない。」「長い間待っていたこの瞬間が、ついにやって来た。」「私たちが思いがけず引き合わせてくれた、この奇跡的な偶然に感謝します。」などに対する、この地方特有の表現なのです。

エストニア人がクリント・イーストウッド並みのポーカフェイスを装ってあなたと握手し、「最近どうですか。」という挨拶に対し

て、「Normaalne!」と答えた場合に考えていることは、そういうことです。派手な感情表現は、エストニア人には、適していません。しかし、一度受け入れられれば、誠実な友人となり、車で一緒に郊外に出かけたり、刺激的なナイトライフを探求したり、あるいは気軽に食事に出かけたりするような関係になるでしょう。



エストニアでいろいろな体験を



自らがデザインしたエコ・コンシャスの衣装を着たエストニアのファッションデザイナー、リート・アウス。

グリーンに考える

街に点在するカフェや原生林の奥深くに佇む歴史的なマナーハウス的美食レストランでは、エストニアのヘルシーで特色ある料理に親しむことができます。郷土料理には洗練された健康食材が使用され、ヨーロッパでポピュラーになりつつある有機農法は、田園国家エストニアでは長年にわたって自然に続けられています。

ここではグリーンな考え方というものが尊重されており、再生可能なエネルギー源の使用や持続可能な消費を考えることは、自然に囲まれて暮らすエストニア人には、当然のこととされています。エストニアは、風力発電施設の設置や、リサイクル環境の整備等に関する取り組みにおいて、大きく前進しています。

グリーンはファッションの場面でも表現されています。エストニアのデザイナー、リート・アウスが手掛けた衣服は、国際舞台でも完全に独自のスタイルを貫いています。エコロジカルな発想と、リサイクル材料から生まれる彼女のエレガントなコレクションは、ヨーロッパで大きな注目を集めています。

エストニア一歩付かずの原野と無垢の自然保護区一帯はそれこそが、エストニアが毎年訪れる数百万人の観光客を魅了している理由です。多様な社会生活とエストニアの自然環境との共存が、まさにエストニアを特別な場所にしています。市内から30分も車を走らせれば、突然、そこはおとぎ話に出てくるような静かな無垢の森。今まで見たこともない動物やきのこを観察し、モミの針葉やテントウムシに肌をくすぐられる感覚を味わうのです。



エストニアの代表的食材「ベル・マッシュルーム」

ミッドサマーデイ

エストニア人は、郊外の田園地方を心から愛しています。夏以外は寒い日が続くエストニアでは、特に夏は、人々が待ち焦がれる季節なのです。もっとも長い夏の日、日照時間は19時間におよびます。一年でいちばん美しいこの時期の白んだ夜は格別です。6月23日は、ミッドサマーデイ(夏至)、または聖ヨハネの日として知られています。豊穣祈願と関係があり、型破りな方法でお祝いをするミッドサマーデイは、一年でもっとも重要な行事のひとつです。伝統的には、夕暮れ時に大きな焚火を起こし、人々は自家製のビールを飲み、恒例の焚火越えが行われます。そして夜には、魅力的な異性と一緒に森に散歩に出かけます。これは一般的に、「シダの花探し」と呼ばれる風習です。

サウナ

ミッドサマーデイはもちろん、実際には季節や月の満ち欠けに関係なく、エストニア人は一年を通じて、サウナに喜びを感じます。熱い石で100℃以上に加熱した風通しの悪い部屋に閉じこもり、毛穴が開いて汗が滴り落ちるまでそこに座っています。その



<100℃の室内>それでも心地良い



ミッドサマーデイ恒例の焚火越え

後、白樺のブラシやネズの小枝を持って、肌が赤くなるまで全身をたたきます。全身が温まった頃合いを見計らって、可能な限り近くの冷水に急いで飛び込み、「ああ楽しかった」と言います。一見、自虐的な行為にも見えますが、これが実に気持ち良いのです。

この熱い部屋はサウナと呼ばれ、エストニアや北欧諸国では大変人気があります。日本の皆様にも、親しまれていますね。体を浄化し健康を増進させる効果があることが、人気の理由です。今日でも、エストニアでは民間療法やハーブ、自然をベースとした治療法が尊重されています。シャーマンや祈祷師、そして魔女までもが、昔は病気の治療を行っていました。大半の医療処置は、サウナで行われていました。これは、サウナの作用が毒素の排出を促進するという理由だけでなく、エストニアの冬の気温が-30℃を下回る地域があるからでもあります。

よく観察してください。じっと見つめる瞳の奥に、シャーマンの子孫や魔女がいるかもしれません。幸い、エストニアには良い魔女しかいませんけれども。

WiFiでつながる!

エストニア人の血管を流れるシャーマンの血のおかげでしょうか、どうやらエストニア人は口を開かずに長距離間でコミュニケーションを取ることができるようです。たとえば、それぞれの間に広大な無垢の森や、エストニアの石灰石の岩山があったとしても、それは問題ではありません。

ジャングルの中で太鼓を使って連絡するのは違います。エストニアの場合、ワイヤレス・インターネットが、その手段となります。おそらく、森の中に出かけているときでさえ、ウィキペディアを使って植物を特定することができる、小さな国の噂を聞いたことがあるでしょう。それは、事実です。エストニアでは、全国でワイヤレス・インターネットを使用することができ、そのほとんどが無料です。

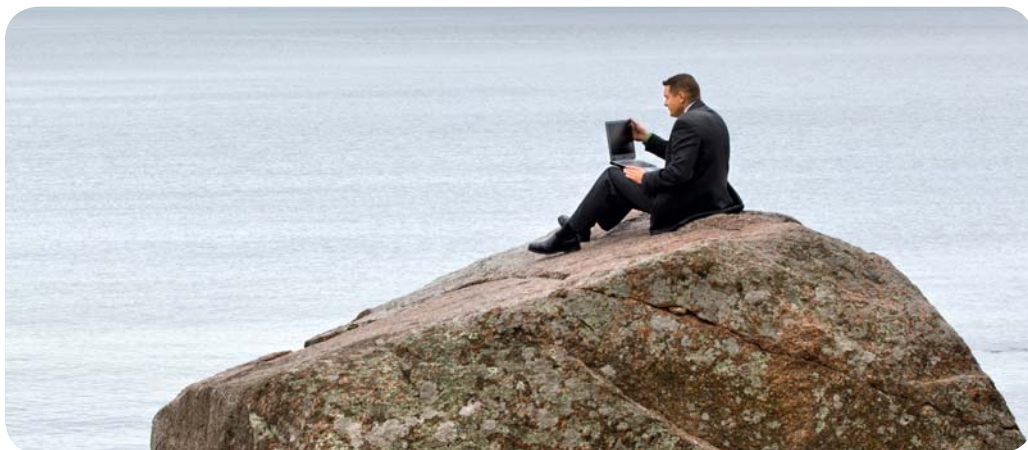
エストニア人は仕事中毒な人々として有名で、そのため、時として「ヨーロッパの日本人」と呼ばれることがあります。WiFiなどは、これらすべてに対して良い面があります。解決困難な問題が、オフィスの壁に囲まれているときより、公園のベンチや海岸にいるときの方が容易に解き明かされるのは、当然と思われています。夏には、少しの間オフィ



森の中でログオン

スの外に出て、最寄りの公園まで散歩し、閉ざされた空間では進まなかった報告書を書き上げると気分が良いものです。また、冬には最寄りのカフェに立ち寄り、エスプレッソを飲みながら、「これから世界一周旅行のため、今日はもう戻りません。」なんて、上司にメールしたいものです。

WiFiがあれば、エストニア中どこにいても仕事ができます。例えば、月曜日の朝に石灰石の海岸で、頭をラップトップの上に乗せて目覚めたり、あるいはヒグマにねぐらの中で抱擁されているような状況でも、そこから仕事に参加することができます。



海辺でログオン



あるいは街中で

国際的なエストニア人

スカイプは、エストニアの平凡な男性の発明であることをご存知でしたでしょうか。それも、本当です。彼らは、人生をより素晴らしいものにする方法を知っていました。それを我々にも享受してくれたことは、尊敬すべきことです。

けれども、エストニアが革新的なインターネットをベースとしたインフラ開発の点では、世界有数の国であることは、ご存知でしたでしょうか。エストニアでは、携帯電話からSMSメッセージを送信して駐車料金を支払ったり、インターネット上で電子署名を行えるだけではありません。この国では大統領選挙の投票さえもインターネットで済ませることができます。エストニアは単に電子国家と呼ばれているだけではありません。

コンピュータの利用促進に関する国家プロジェクト「タイガー・リープ」がきっかけとなって起こった、爆発的に増加した電子メディアの開発と普及により、エストニアはコンピュータ依存型の楽園となりました。いつでも、どこでも、どんな姿勢でも、あなたはインターネット回線に接続可能です。都会の公園でSNSにログインするだけではありません。旅行者のエストニアでの滞在生活を簡

単にするための電子筋肉が、インターネットなのです。旅行者は、ウェブ上の正確な情報を元に、旅行を実行することができます。

エストニアのパソコンおたくの人々が、外国で優れたデータ保護システムを構築するのに一役買ったり携帯電話や日常のインターネット・サービスを一般に広めるノウハウを提供することは、よくある話です。

ですから、メモリースティックを自分の耳にあるUSBポートに差し込むような、ユビキタスな未来を考える人々には、きっとエストニアは魅力的な場所となることでしょう。



携帯電話での駐車料金の支払いは便利

旧市街と新しい都市の出会い

首都中心部にある超現代的なホテルから一歩外へ出て、暖炉からの煙突が飛び出た可愛い木製コテージの横を通り過ぎ、角を曲がると突然そこは旧市街。例えば、中世ヨーロッパではもっとも高かった教会の前に立っていたりすることは、ヨーロッパでも非常に珍しいことです。タリン旧市街は、それほど大きくありませんが、独特な雰囲気を持っています。200年間営業を続けてきたカフェハウスでワインを飲みながら、永遠と無常についてじっくり考え、翌朝、同じ敷地内で営業を続けるヨーロッパ最古の薬局である、ラエ・アプテーク(市議会薬局)で、アルカ・セルツァーを購入するかもしれません。ラエ・アプテークが歴史的書物に最初に登場したのは、1422年のことです。しかし、肝心なことは、建物や思いもしないコントラストではなく、むしろこれらすべての側面が同化され、生活や仕事のための全く新しい環境が形成されていることです。ここでは、「それは角を曲がったところにある」という表現をまさに文字通り受け取ることができます。バーからホテルに向かうのに必要なのは、



古さと新しさの共存

自分の足で歩き、中世の敷石をいくつかまたぐことだけです。カフェ、ホテル、映画館、劇場、スパなど、必要なすべてのものが、旧市街とその周辺に集まっています。働く人々は都会の喧騒から離れ、日陰のある小さな公園で電子メールを読んだり、旧市街のカフェやナイトクラブでfuturetroを聴けば、まるでタイムマシンに乗って、過去や未来を行き来しているような体験をすることでしょう。



屋上のカフェからはタリン旧市街の風景が



偉大な音楽家エリ・クラスとアルヴォ・ペルト

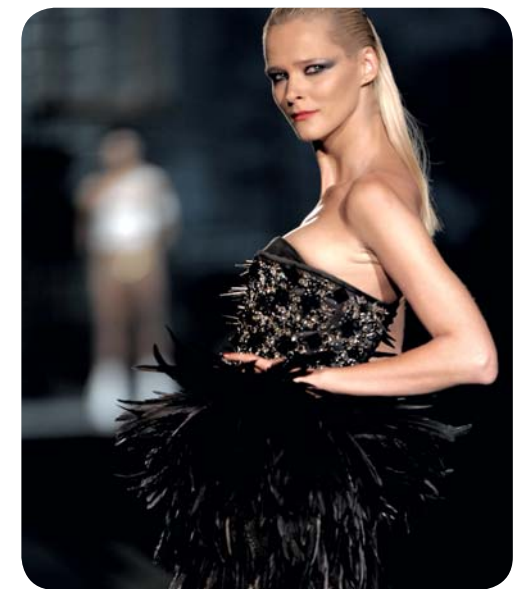
エストニアを代表する人々

エストニア出身のスーパースターは、何もスカイプだけではありません。エストニアは、伝説的スーパーモデルのカルメン・カースや、若く有望なカルメン・ペダルとティーウ・クイク、そしてクラシック音楽界では世界的に知られるアルヴォ・ペルトやヴェルヨ・トルミス、エリク・スヴェン・トゥールの出生地です。時代を超えた彼らの名作は、レコード店のコレクションに加えられています。

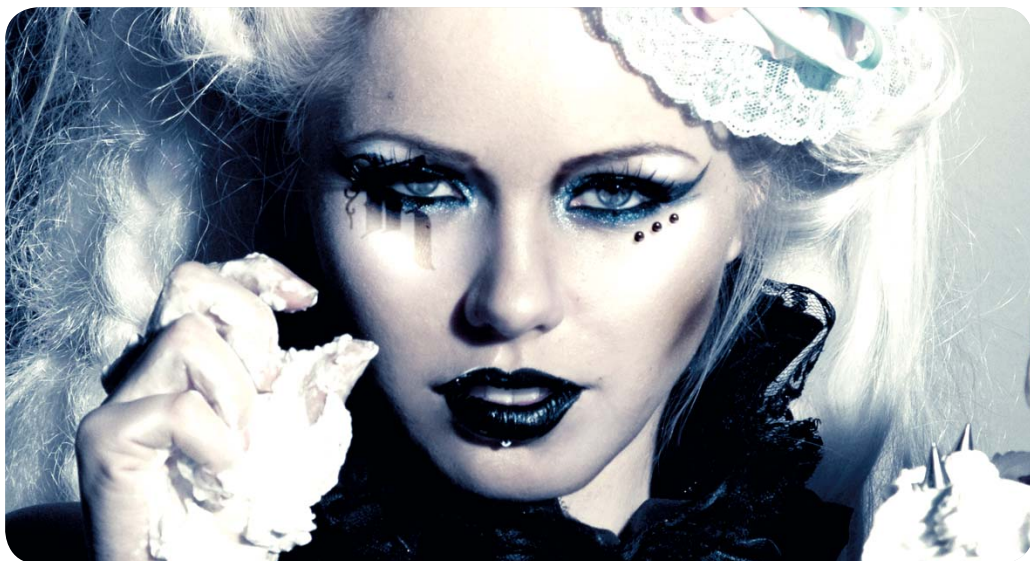
ケルリ・コイヴ。ポップ界で人気急上昇中のこのスターも、エストニア人です。＜私は秘密のエストニアと呼ばれる土地の出身です。誰もそれがどこにあるか知りません。もちろん、あなたは知っているでしょうが・・・＞ティム・バートンは確かに知っているのでしょう。彼の待望の3Dアニメ「アリス・イン・ワンダーランド」のサウンドトラックを書くようケルリに依頼したことからも明らかです。

1992年、後に世界的に有名なバンドとなるオアシスに加入した、ノエル・ギャラガー。彼はエストニアの音楽祭「ロックサマー」に、インスパイラル・カーペッツの設営係として

参加しました。エストニアのインディーズバンドの先駆けだったルーベル・ウービクのメンバーとカーペッツは、一緒に街をぶらついていました。ウービクのメンバーが、マンチェスターのミュージシャンで、良さそうな新しいバンドを知らないかを尋ねたところ、カーペッツは、一緒にいた無口な設営係を指差し、「この男は、実にいいバンドにいる。



スーパーモデルのカルメン・カース



表紙にも登場したポップスターのケルリ・コイヴ

オアシスっていうバンドだ。」と言いました。エストニアの音楽誌「バルプ」は、ノエル・ギャラガーの写真が世界で初めて掲載された出版物となりました。彼らはのちに、そのことを故ジョン・ピール氏のラジオ番組で語りました。

エストニアのポップとアンダーグラウンドシーンは、ヨーロッパで広く知られています。エストニアのクラブやDJは、ロンドンなどのハードパーティを楽しむ都市で有名です。エストニア人は、音楽や新しいものが好きなのです。今日タリンのアンダーグラウンドシーンで響いていたビートが、明日にはヨーロッパの主流になっていることもあります。

これらは、エストニアに関連した有名人の名を羅列しているのではなく、自分がやりたいことをやるという、エストニア人の精神的な側面を紹介しているのです。

エストニア人の前向きな頑固さは、スポーツの世界においても顕著です。異国のスポーツで活躍するエストニア人の代表に、大相撲の把瑠都関がいます。現在は、アー

セナルのGKコーチとして活躍するマルト・ポームも、その一人に数えられます。「奥さん運びレース」は、エストニアの男達が考案したスポーツだというのは、ご存知でしたでしょうか。



大関に昇進した把瑠都関

自国の文化と祭りを愛するエストニア人

エストニアでは、都心から離れたのどかな場所で、文化度の高い催しが数多く開催されます。毎年50を超える音楽祭が開催され、オペラからアバンギャルドまで、あらゆるジャンルの音楽イベントが催されています。レイゴ湖音楽コンサート、ナイッサール島でのナルゲン・オペラ祭、エストニア中の母なる自然の美しさに囲まれた夏の演劇会。それは現代のカルチャーシーンの一面に過ぎません。ブラック・ナイト国際映画祭は、大規模かつ影響力のあるものになりました。フリンジ・ホラー祭「HÖFF」は、美しいスパの町のひとつであるハープサルで開催され、身も凍るような体験を提供します。ここでは、他のどんな町よりも重要な歴史があることを誇っています。

そして、伝統やポップ・カルチャーからは逸脱し、エストニア文化を育んだ本質的な象徴が、「歌と踊りの祭典」です。この国民的祭典には、全国から何万人もの出演者と、より多くの観客が集まります。この祭典の伝統は1869年にまでさかのぼり、最初の祭典が開催されたのが学園都市タルトゥでし



レイゴ湖でのコンサート

た。2009年には、913の合唱団とオーケストラが、歌と踊りの祭典のために建設された歌の原で演奏するため、タリンに集まりました。正確には、28,166人の歌手が、史上最大の合同合唱団として、天使の声を響き渡らせました。歌と踊りの祭典は、昨日と今日、古代と現代の文化の架け橋となっています。ここでのハイレベルなパフォーマンスは、エストニアの本質、悲哀、喜び、大志を表現しています。



エストニアの地図を描く踊りの祭典の参加者

www.visitestonia.com



エストニア概要

正式名：	エストニア共和国
面積：	45,227km ²
人口：	136万人
首都：	タリン（人口405,000）
公用語：	エストニア語
政治形態：	議会制民主主義
法定祝日：	2月24日（独立記念日）
国鳥：	ツバメ
国花：	矢車菊

エストニア共和国は、欧州連合、シェンゲン地域およびNATO加盟国です。

エストニアは、東ヨーロッパ時間帯（GMT/BSR +2:00）に属します。

エストニアの国番号は+372です。エストニア国外へ国際電話をかけるには、00に続いて国番号を押してください。